

発明の名称	走化性運動制御剤(特許第 5626755 号)	
学内発明者	久保原 禪(元生体調節研究所) 岡島 史和(生体調節研究所) 小町 麻由美(生体調節研究所)	
技術分野	医薬・バイオ	IP22-037
発明の概要	細胞性粘菌由来 DIF-1 と DIF-2、及びその DIF 誘導体は、粘菌走化性運動を制御する活性を有することを見出した。さらに、各種 DIF 誘導体は、がん細胞の遊走を阻害する活性を有することを見出した。このことから、これらの化合物が抗がん剤(がんの転移阻害剤)などとして有用であることを見出した。	
説明図		
ポイント	<p>各種 DIF 関連化合物 (DIF 誘導体) の構造を示す図。</p> <p>本発明の DIF 誘導体は、細胞性粘菌の走化性運動、並びに哺乳類がん細胞の浸潤・転移を抑制する薬剤、あるいは、免疫系細胞の走化性運動を制御する薬剤などとして好適に用いることができる。また、様々な細胞種を用いた走化性運動研究などの基礎研究用試薬としても好適に用いることができる。</p>	

発明の名称	後発酵茶由来の血圧上昇抑制作用を有する剤並びにそれを含む飲食品及び医薬 (特許第 6281855 号)	
学内発明者	中村 彰男(医学系研究科) 吉山 伸司(医学系研究科) 田中 夏女(医学系研究科) 河原田 律子(医学系研究科)	
技術分野	医薬品・サプリメント	IP24-004
発明の概要	後発酵茶を熱水で抽出した酢酸エチル抽出物を有効成分とする血圧上昇抑制剤であり、アンギオテンシン変換酵素の作用を阻害して血管平滑筋を間接的に弛緩させ、かつ、血管平滑筋に直接作用して血管平滑筋を弛緩させることにより血圧上昇を抑制する作用を有し、安全であり毎日に服用も可能であって血圧上昇を継続的に抑制することが可能な剤を提供する。	
説明図		ラット大腿動脈の内皮除去血管平滑筋標本における、塩酸ヒドラジン、GABA含有緑茶及び基石茶の酢酸エチル分画エキスの血管平滑筋弛緩作用を比較した結果を示す。
ポイント	近年の健康志向や安全志向の高まりとともに、健康により影響を与えると考えられる食品や特定保健用食品(トクホ)が注目を集めている。様々なお茶抽出エキスについてスクリーニング実験を実施したところ、後発酵茶エキスに血管平滑筋の弛緩による血圧低下作用を見出した。この血圧低下作用を有する後発酵茶エキス及びその製造技術の応用として、副作用を引き起こすことが少なく、安全な飲食品及び医薬品の開発が期待できる。	